

## 1. どのような課題があったか

1. 店舗内機器の徹底した管理を目指したいが会計システムでは実現できない。
2. 自社で独自開発を検討したが、ノウハウがなく高額な開発費用が発生しそうだ。
3. 店舗改装、閉店、新規出店等での機器移動、不明機器や修理対応を含め管理情報不足によるロスが多く発生。
4. 急務の管理体制に自社開発では間に合わない。
5. 現場の入力実現にはオペレーションの簡単なシステムでなくてはならない。

## 2. どのように問題解決したか、選ばれた理由

1. 最大の理由は、常に全資産の所在場所及び移動の把握ができる唯一のシステムである。
2. オペレーションが簡単(クリックのみ)で、各設置現場担当者のオペレーションに負荷がかからない。(分散管理の実現)
3. 各地区、店舗、店内のルーム単位と3階層管理及び修理センター、緊急用待機機器まで統合管理できるシステム。

### 3. どのような効果が出たのか

1. 故障時に新規対応か修理対応かが的確に指示可能になった。(機器別修理履歴保有)
2. 待機機器の的確な数量が明確に。(修理センター内機器、各店舗内待機機器、機器センター内機器の統合管理)
3. 余剰機器の抑制が実現した。

## 4. 補足

店舗経営において、店内機器は営業上、常に万全な対応がせまられる。

顧客による破損や、故障により緊急の機器取替えなどの対応で常に待機機器を多く保有していなければならなかったが、修理状況や各店舗機器状況をトータル管理することや故障状況により以前の故障履歴を参考に修理可能か新規対応かのきめ細かい指示が可能になったことで、的確な投資が実現。

# カラオケ店における運用イメージ

